

コロサイ人への手紙 3 章です。今日は 5 節から 11 節。先週は 4 節までを学びました。使徒パウロが聖霊によって、続けて語っています。かなりはっきりと。

コロサイ 3:5-11

- 5 ですから、地にあるからだの部分、すなわち、淫らな行い、汚れ、情欲、悪い欲、そして貪欲を殺してしまいなさい。貪欲は偶像礼拝です。
- 6 これらのために、神の怒りが不従順の子らの上に下ります。
- 7 あなたがたも以前は、そのようなものの中に生き、そのような歩みをしていました。
- 8 しかし今は、これらすべてを、すなわち、怒り、憤り、悪意、ののしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを捨てなさい。
- 9 互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは古い人をその行いととも脱ぎ捨てて、
- 10 新しい人を着たのです。新しい人は、(ここは非常に重要です)それを造られた方のかたちにしたがって新しくされ続け、真の知識に至ります。
- 11 そこには、ギリシア人もユダヤ人もなく、割礼のある者もない者も、未開の人も、スキタイ人も、奴隷も自由人もありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。

私たちがこの聖句を理解できるように、神に祝福を願って、一緒に祈りましょう。

愛する天のお父様、今日与えられている御言葉を感謝します。

全ての御言葉はあなたの靈感によるものであり、それには目的があるので、焦点を外さないように聖霊の導きが必要です。そうすれば、あなたが御言葉を通して知らせたい事と、それをクリスチャン人生にどのように適応させるかを理解できますから。

ですから主よ、どうか私たちが注意をあなたに向け、集中できますように。私たちは今日の学びを何ひとつ見逃したくないのです。主よ、どうぞお語り下さい。しもべは聞いています。

イエスの御名によって祈ります。アーメン。

では、天を思うことはクリスチャン人生に於いてどのようなものか、『天を思う人生』についてお話ししたいと思います。

前回学んだ節で使徒パウロが語ったのは、私たちの心と思考を上にあるものに、この世の事ではなく、天にあるものに向ける事の重要性でした。それは、キリストが天の父の右に座を占めておられるところからです。

今日学ぶ箇所ではパウロは基本的にこう言っています。「この地上での人生がどうであるべきかは、神が過去にして下さった事と、将来私たちのために天に蓄えて下さっている事による。」

別の言い方をすると、「イエス・キリストが私たちのために既にして下さった事、それは過去。天でキリストと共に行くのを心待ちにする事、それは未来。それが、地上での現在の生活に影響をもたらす。」

恐らくもう 1 度前置きが必要ですが、私は、天を思う人で、この世では何の役にも立たないという人

に会ったことがありません。皆さんも同意されますか？ それは事実でないだけでなく、その反対が真実で、天に思考を向ければ向けるほど地上で実践し、役に立つという意味で、それが、パウロがここで話していることです。

天を思うクリスチャン人生には、言わば3つの特徴とするしが伴います。

1) **コロサイ 3:5-6**「この世の本性 (Nature) は殺されている」

コロサイ 3:5 ですから、地にあるからだの部分、すなわち、淫らな行い、汚れ、情欲、悪い欲、そして貪欲を殺してしまいなさい。貪欲は偶像礼拝です。

パウロが挙げている6つはこの世の本性です。

まず淫らな行い (不品行) ; 新約聖書の原語のギリシャ語では興味深い言葉を使っていて Porneia、英語の Pornography (ポルノ) です。あらゆる性的な罪、不品行、婚姻外性交渉、結婚前性交渉、性的淫らな行い。そして汚れ、情欲、悪い欲、貪欲。パウロは、これら全部が偶像礼拝に分類されると言っています。

コロサイ 3:6 これらのために、神の怒りが不従順の子らの上に下ります。

これは説教そのものになり得ますが、間違いなくそうです。今日アメリカの教会では、これについて殆ど語りませんが、事実上、キリストを否定したこの世の上に神の裁きが下るのです。

学生時代、皆さんも同様のことがあったのではないかと思います。先生から“Put your thinking cap on” (よく考えなさい) と言われた時、いつも想像していたのは、とても大きな字で“THINKING” (よく考えろ) と書いてある見てくれが悪い帽子をかぶったら、しっかり考えられるということ。「よく考えなさい!」

この事実に基づいてパウロが言っているのは、「私たちはこの世の本性を殺さなければならない。」

その他でもない理由は、この世の本性が今だ存在しているからでしょう。

たとえ私たちがキリストに立ち返っているとしても、古い本性、罪の本性が、絶えず継続して、そこに陥るように強く要求するのです。

そして、その本性は殺される事を望みません。だから、天のこちら側の腐敗している世では、私たちはこの肉体にいる限り、常にこれらの罪の本性を持ち合わせており、これに対処しなければならないのです。

しかしその対処法とは、罪の本性に応じることではありません。それは交渉不可能です。

たとえで説明するのでお付き合い下さい。ここに罪の本性があります。「ねえ、私と話しましょうよ。

あなたがキリストの中にいるのは知っていますよ。でもね、聞いて。私はここにいるのよ。」

私たちの応答は「いや。おまえと話すつもりはない。」

「ほら、同意してくれるでしょ?」「ダメだ! おまえは死ななければならない。私は自分の古い本性を殺さなければならない。なぜなら、私は自分の十字架を背負ったのだから。私は自分に死に、罪の本性を殺す。私は今や、キリストにあって新しく造られた者であり、私の中には、新しいいのちと新しい本性を与えて下さった聖霊がおられるのだ。」

これは、パウロがコリント人に言っている事です。

IIコリント 5:17 ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。
古いものは過ぎ去って(死に)、見よ、すべてが新しくなりました。

だから私たちには、古い本性と新しい本性の間に戦いがあるのです。この世の本性 VS 新しい天の本性。
この戦いは、どちらかが死ななければなりません。どちらでしょうか? 古い本性です。

2) **コロサイ 3:7-8** 「天を思うクリスチャンは、かつての生き方をしない」

パウロがコリント人に手紙を書いた時、コリントは著しい性的な罪、同性愛の罪のライフスタイル
でした。それに関して彼は言っています。

コロサイ 3:7 あなたがたも以前は、そのようなものの中に生き、そのような歩みをしていました。

「あなたがたの中には…」そうです。コリント教会にはそんな生き方から解放され、新生したクリスチ
ヤンになった人たちがいたのです。彼らはキリストにあって新しい本性が与えられ、もう過去のよう
な生き方をしません。

興味深いのは、パウロが再度リストを上げて、私たちにその責任を帰していること。

コロサイ 3:8 しかし今は、これらすべてを、すなわち、怒り、憤り、悪意、ののしり、あなたがた
の口から出る恥ずべきことばを捨てなさい。

「私たちは自分自身を捨て去らなければならない。捨てなさい!」

怒り、憤り、憤りはギリシャ語では Thumos、英語では Thermos、怒りを爆発させるという意味が含まれ
ます。「爆発する怒りを捨てなさい。」

悪意 (Malice) とは、他人の不幸をすごく喜ぶこと。好きではない誰かが不幸になるのを喜ぶ。

と私が言うと、頭の中に浮かぶ人がいるでしょう。皆さんと聖霊との間でお任せしますが、この思いが
悪意です。誰かに対して、このような悪意を持って考える事。「悪意を捨てなさい!」

罵り、これは重要です。特に悲しい事がキリスト教会内の悪口。

驚愕させられるのは、新約聖書の中に、今日見ている事が挙げられていること。そのリストには殺人が
あって、同じリストに陰口が一緒に挙げられている。なぜなら、それはものすごく破壊的だからです。

罵りがここに挙げられているのは、これをなくさなければならないから。

「それがあなたを滅ぼしてしまう前に、あなたがそれを取り去りなさい。」

ある人がこんな風に言っていました。「罪を徹底的にやっつけろ。罪はあなたがたを無慈悲に扱うから。」

「これはまあ、小さな事だし…」ダメダメ。敵にそれをさせないで下さい。

そして、恥ずべきことば (汚い言葉)

これら全てに共通の性質があります。それについて後で少しお話しますが、これを指摘するのは、古い
本性は私たちにしつこく付きまとい、私たちはそれに協力してしまうからです。

そして古い本性は、私たちが聖霊に協力して、新しい本性になるのが嫌なのです。

これが3つ目に繋がっています。残りの時間はこれを学んでいきます。

3) コロサイ 3:9-11 「天を思うクリスチャン」

天を思っているクリスチャンの生き方は、「行動を伴う変化」を見せます。この言葉を選んだのは、天を思うクリスチャンには何か違いがあることが、否定出来ないからです。

これについてパウロは 9 節で、どのように古い人を脱いで捨て去るかを説明し、10 節で更に解説しています。

- 9 互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは古い人をその行いととも脱ぎ捨てて、**
10 新しい人を着たのです。新しい人は、それを造られた方のかたちにしがって新しくされ続け、
真の知識に至ります。

脱ぎ捨てる。捨て去る。そして新しい人を着る。これが意味しているのは、古い人、死体を包んでいる布、つまり古い本性を捨て去り、代わりにキリストにある新しい本性を自身に着るということ。

パウロはこれについて 11 節で再度語っています。

- 11 そこには、ギリシア人もユダヤ人もなく、割礼のある者もない者も、未開の人も、スキタイ人も、奴隷も自由人もありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。**

私たちが認識しているかどうかに関わらず、私たちは着ている物でその人を判断/識別します。

これに関して、色々な研究がされて来ました。

ある男性がみずぼらしい洋服を着て店に入ると、誰も「いらっしゃいませ」と声をかけません。

同じ日に、同じお店に、同じシフトで、同じスタッフがいる時に、同じ男性を正装させて送ってみると、「いらっしゃいませ。お客様、どうぞ、こちらへお入り下さい。」(この人は立派な方に違いない。こんなに正装しているのだから、重要な立場の人に違いない。この服は安物ではないし。)

「ところで、ステキな靴でいらっしゃいますね。」(この靴、29.99 ドル程度で買える代物ではないぞ。399 ドルはするはずだ。)

以前ノードストーム(大型百貨店)で、妻を待っている間ブラブラしていました。ノードストームがどうかではありません。行ったことがなかったので、外に出ることもなく、単にそこにいました。

そして男性靴を見ようかと…、別に買うつもりもなく、ただ何か見ようと思い、そこは靴が有名だから行って見たのです。今でも言葉が出ませんが、私にとって実に何というか…靴売り場で私が見ていたのは、いたって普通のローファーで、一足手に取ったのですが、本当に落っこしそうになりました。だって値札を見たら、500 ドルって書いてるんですから! 「これ、冗談?!」「ドッキリカメラで客の反応を見てる?!」いいえ、そうではなく、まさにその価格なんです。

正気を保つために別のお店、ディスカウントストアの Pay Less に行きました。

本当にビックリしたので、自分が大丈夫か確認しようと思って。500 ドルですよ!

これは私が車の仕事をしていた頃の実話で、興味深い話です。

若者がキャデラック・ディーラーにやって来ました。ジーンズに T シャツ、スニーカーの普通の若者です。営業マンたちは誰も彼を気にせず、見もせず、声もかけず、放っていました。

やっと、まだ何も分かってない新人の営業マンが彼に近づいて「あの…、何かお探しですか?」

若者の返事は「ええ。実はこれ…」

ポケットから取り出したのは、父親に買ってあげたいキャデラックストレッチリムジン全種のリストでした。

これについてヤコブが語っています。

ある日教会に、誰かがきらびやかで立派な格好で、さっきの若者が注文したようなキャデラックリムジンから降りてくれば、どう思いますか？ 何をするでしょう？

私たちは、まず見なす・認識する (Identify)。これがキーワード。

(この人は重要な人物に違いない。)そして、それに基づいて接します。「こちらにいらして下さい。どうぞ、どうぞ。」「献金箱は窓際のあの後ろにあります。」私たちは絶対にそんな事はしません。皆さん、ご存知ですね。オンラインでご覧の皆さん、私たちはそういう事はしてませんから！

ここから他のところに繋がるのでご辛抱下さい。

私たちがキリストにある新しい本性を着るなら、キリストを着ることになるので、キリストと共にあると認識される。これが私たちにとっての真理です。

別の言い方をすると、私たちは怒り、憤り、傲慢、悪意、罵り、口から出る恥ずべき言葉、という古い本性で認識されている古い服を脱ぎ捨てる。

息子が大学から帰って来て、夏の間こちらにいます。私たちは大学生活について話し合っていました。彼は男子寮に入っていて寮長なんです。主よ、感謝します。

彼が言うには、「口の悪い美人ほど、気分の悪いものはない。本当に魅力的な美人なのに残念だよ。」彼は言ったそうです。「君はとても美しいけど、そんな風に話す時、どれほど醜いか気づいてる？ 君は本当に言葉が汚いね。」だから「ええ！ そんな事言って、ひっぱたかれなかった？」と聞きましたよ。こういうことです。私たちはキリストを着る。今や、古い本性によって認識される代わりに、私たちに違うものがある。私たちは他の人たちのように話さない。「彼は皆が言うような汚い冗談は言わない。」

また彼の話ばかりすると叱られそうですが許して下さい。

リーヴァイ (息子) は、呪いの言葉などの汚い言葉を決して話さないと思います。それが彼を際立たせているのです。キャンパスにいるところを想像してみてください。学生たちは息子をいつもそのように認識するのです。なぜなら、彼はクリスチャンだから。クリスチャンはそんな風に話さないから。私がクリスチャンになる前は…。そんな風に見ないで下さい。37年前のことなんですから。私はもう、そんなものは捨て去りました。

クリスチャンは何かが違う。際立っている。謙虚さを身にまとっている。へりくだりがある。

誠実が、純粋さが、優しさがあって、まさしく際立っている。あなたは着ているものによって、そう認識されるのです。と言っても構わないでしょうか。もう言いましたけど。

私たちはキリストを着てビシッと決まっています。最高の靴も履いています。

随分前の本土にいた頃を思い出します。私が 20 歳台だった大昔のこと。本当に昔々です。

私はメルセデスベンツで働いていて、毎日最高のスーツを着て、全く素晴らしい車を運転し、♪メルセデスベンツ～♪ そんな風に着飾ると振る舞いに影響しますよ。本当に。

私がハワイに引っ越して、確か今度の12月で16年。時の経つのは何と早いのでしょうか。

私がなかなか慣れなかったのは、サンダル、半パン、シャツで出歩かなければならなかった事で、私は本当に、自分の服装通りに振舞っていました。

逆にスーツを着ると…今この島でスーツを着るのは結婚式の司式の時とかですが、ここに来る時に古いスーツ、古い本性を全部捨て去ったので、いや実は古い服が入らなくなったので、とにかく新しいスーツを買いました。それで、ネクタイを締め、襟カラーをして正装すると、おお、素晴らしい！気づいたら、歩き方が変わっていました。だって、スーツを着ているんだから！ 正装した女性もそうですよ！

この話がどこに向かっているか分かりますか？ 分かって頂けていますように。

私たちがキリストにあって正装するなら、主と共に歩む中で、「あの男は何かが違う」「彼女は何か違う」「彼女って、他の人とは違うね」と言われるのです。

この質問で締めくくります。

「私のクリスチャンライフは、人々が私をイエス・キリストのかたちに似た者、イエス・キリストと共にある者と認識できるような生き方だろうか。」

皆さん、パウロが最後に言っている事に気づいていますか？

コロサイ 3:11a そこには、ギリシア人もユダヤ人もなく、割礼のある者もない者も、未開の人も、スキタイ人も、奴隷も自由人もありません。

ハワイ人、アラブ人、___人、___人、下線部を埋められますね。中国人、日本人、区別ありません。私たちのアイデンティティーはキリストにあります。

コロサイ 3:11b キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。

話し方、歩き方、行動、振る舞い、人との接し方など、私の中に、私が行うあらゆる事の中に、人々がイエスを見るようであればなりません。

ところでネタバレ注意。コロサイ書 3 章の残りの部分で、パウロは夫と妻が互いにどう接するか、子育てのこと、子供が親に、親が子供にどう接するかを実に明確に語ります。

それは、キリストにあって正装し、キリストのように行動する事です。

なぜなら、あなた方は古い本性を脱ぎ捨てたのだから。もう、古い本性では生きていないのだから。

もう、それを着ていないし、その時のように歩かないし、その時に語っていたようには語らない。

あなた方は、キリストにあって新しく造られたのだから。

今までに、このように質問されたことはないですか？

「もしあなたがクリスチャンだという理由で逮捕されるなら、有罪になる十分な証拠がありますか？」

